

わが家に風の道をつくる!

エアコンの温度設定に敏感なつたり、扇風機を投入して空気循環させたり、今年の夏も、節電対策に翻弄させられる毎日。でも、ベランダに出てみたら、エアコンを効かせた室内より、よっぽど外の方が涼しかった…なんて経験ありませんか？そこで、今こそ見つめ直したいのが、風の力。自然の『風の力』をもっと上手に利用できないか、一緒に考えてみませんか？

窓さえ開いていればいいわけではない？

わが家に帰ってきたら、エアコンのスイッチを入れる前に、窓を開けて家中に風を通しましょ。そうすると、家のものの温度が下がり、エアコンの効き目もよくなります。時間帯によっては、エアコンなしでも涼しかったりします。

そこで、注意しなければならないのが、窓の開け方。窓さえ開いていればいいわけではありません。外はさわやかな風が吹いているのに、窓を開けてあまり風が入ってこないところ、わが家の窓の開け方をチェック！こんなことになっていませんか？

- わが家の『窓の開け方』チェック！
- 入口はあっても、出口がない。
- 入口よりも出口の方が小さい。
- 入口から出口までの距離が短い。
- 入口と出口が対面していない。
- 出入口に向かう途中に遮るものがある。

風を走らせるには入り口と出口の両方をつくらなきゃ！

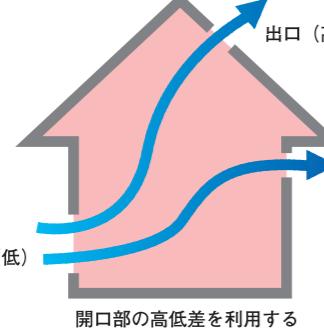
わが家に『風の道』をつくる方法をご紹介します。エアコンに頼らなく、自然の風を取り込んだ暮らしをかなえましょう！



風の流れを知る

風は、気圧の高い方から低い方へ空気が移動することでおこります。一般的に日本の夏は、南から大きな太平洋高気圧がやってくるため、南から北に向かって吹く風が多くなります。住まいにとって必要なのは、この南から北に吹く風を上手に取り込むことなのです。

立体的に風を通せば、風が通る量は2倍に！



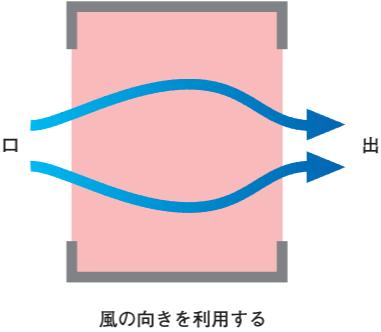
暖かい空気は上にいくので、上の窓を開け、下から空気を取り入れると微かな風が生まれます。

風の道をつくる / STEP③

温度差をつくり下から上に風を通す

自然の風だけに頼っていては、つねに快適な環境をつくり出すことはできません。そこで、活用したいのが『自然対流の原理』です。

空気は温度の低いところから高いところへ流れています。ですので、室内に温度差をつければ、空気の流れ『気流』が生まれます。建物上部に暖かい空気がたまる場所があると、空気が上へ向かってやせくなり、下から冷たい空気が吹き上がります。下の入口から涼しい風を取り込めば、上の出口から家の中にたまつた熱気を逃してくるといふわけじゃ。



風の向きを利用して、対角線上にある窓やドアを開け、たくさん風を通しましょう。

風の道をつくりに風を通す

窓さえ開ければ、風が入ってくるわけではありません。入口があっても出口がなければ、風は通り抜けません。

風通しをよくするためにには、風の流れを知り、通り道となる入口と出口の窓を開けるようにしましょう。さらに風量の調整は、出口側の窓で調整します。開閉の大小で室内を流れる風の量を調整することができる。

風の道をつくったら、涼しい風を取り込む工夫を！

窓を開けて風を入れようと思つたり、外の空気も熱くて嫌になり…。

そんなときこそ『緑のカーテン』や『打ち水』があります。

風を取り込む入口の窓に『緑のカーテン』や『打ち水』をする」と、窓まわりの地面や建物の温度が下がるので、より涼しく感じることができます。

昔ながらの風習『打ち水』には、ただ涼しくなったような気がするのではないか、実際に気温を下げる効果があります。

昔ながらの日本の風習『打ち水』には、ただ涼しくなったような気がするのではないか、実際に気温を下げる効果があります。

昔ながらの日本の風習『打ち水』には、ただ涼しくなったような気がするのではないか、実際に気温を下げる効果があります。



緑のカーテンを簡単&オシャレに！ ウォールメッシュパネル

科学的にも実証! 昔ながらの『打ち水』で涼しい風を取り込む!

昔ながらの知恵編

昔ながらの日本の風習『打ち水』には、ただ涼しくなったような気がするのではないか、実際に気温を下げる効果があります。

昔ながらの日本の風習『打ち水』には、ただ涼しくなったような気がするのではないか、実際に気温を下げる効果があります。

昔ながらの日本の風習『打ち水』には、ただ涼しくなったような気がするのではないか、実際に気温を下げる効果があります。

昔ながらの日本の風習『打ち水』には、ただ涼しくなったような気がするのではないか、実際に気温を下げる効果があります。

昔ながらの日本の風習『打ち水』には、ただ涼しくなったような気がするのではないか、実際に気温を下げる効果があります。

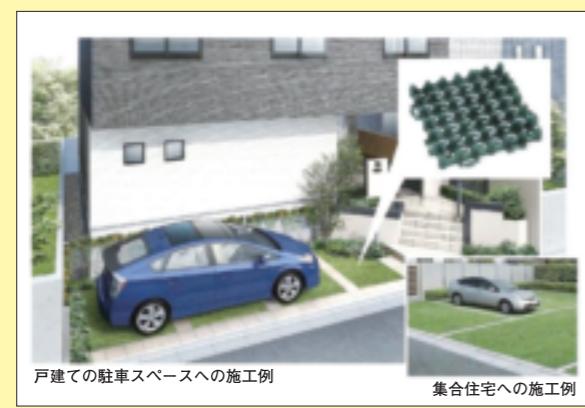
昔ながらの日本の風習『打ち水』には、ただ涼しくなったような気がするのではないか、実際に気温を下げる効果があります。

昔ながらの日本の風習『打ち水』には、ただ涼しくなったような気がするのではないか、実際に気温を下げる効果があります。

昔ながらの日本の風習『打ち水』には、ただ涼しくなったような気がするのではないか、実際に気温を下げる効果があります。

駐車場の地表面温度の上昇を防ぐ『緑化ベース』

家の前の駐車スペースを芝生にしませんか？コンクリートなどに比べて表面温度を抑えることができます。『緑化ベース』なら、パネルを面付けするだけで、いろいろな場所に緑のフェンスを簡単に施工できます。窓まわりに設置すれば、日陰を確保でき、涼しい風を取り込むことができます。



~正しい打ち水の方法~

涼しい時間帯に日陰にまきましょう！

二次利用水を使いましょう！



自然の風の力を活かす『窓まわり』のリフォームは東海ガスにおまかせください！

ショールームスタッフより

私たちが快適に暮らしていくためには、住まいにどんな『性能』が必要なのか、その答えは時代の流れとともに、つなに変化しています。30年先の未来を想像したときにも、変わらず快適に過ごせる『性能』とは、本当に大切にしたい『性能』とは？エネルギー事業を手がけるからこそ提案できる、未来につながる住まいの『性能』について、これからも『エプロン』を通して、さまざまな切り口でお伝えしていきます。

